

みらい産業 福祉・介護キャリアガイド

新しい仲間と
新しいミッションへ



社会福祉法人
長野県社会福祉協議会

〒380-0936 長野県長野市中御所岡田 98-1

●福祉人材センター

TEL : 026-226-7330 FAX : 026-227-0137

保育士人材バンク TEL : 026-217-7787

●まちづくりボランティアセンター

TEL : 026-226-1882 FAX : 026-227-0137



長野県社協 福祉人材センター



Video Story

私が介護を選んだわけ

「自分が信じた道に進んで良かった」
「反対を押し切って(笑)」

Video Story
「ふくしのトビラ」
ぜひご活用ください!

介護福祉士の上条百里奈さんは塩尻市出身。中学生の頃、ボランティアに行った老人ホームで「介護のカッコよさ」に気付き、先生や家族の「反対を押し切って(笑)」介護福祉士養成校に進みました。今は介護福祉士として働きながら大学の講師や介護の魅力を発信するモデルとしても活躍しています。その想いを動画にしました。ぜひご覧ください!!



「県民のみなさまに福祉・介護の仕事の魅力をお伝えしていきたいと思います!」

Video Story ふくしのトビラ 【キャリア編】

学校の進路指導の先生に向けた
ショートバージョンです。

6分のYouTube動画



Video Story ふくしのトビラ 【エピソード編】

授業や進路指導で生徒のみなさんに
見ていただきたいバージョンです。

10分のYouTube動画





Video Story

私が介護を選んだわけ

「自分が信じた道に進んで良かった」

Video Story 「ふくしのトビラ」 内容紹介

● キャリア編
● エピソード編

【共通】
4分



QUONチョコレート（長野市南千歳）

社会福祉法人の若手職員が誘致した、障がいのある人が働くチョコレート・ブランドショップを訪問しました。同店の酒井店長は「チョコレートは失敗したら溶かしてまた作れる。失敗して怒られたトラウマがある利用者にとって、安心して働ける職場を目指します。」と話してくれました。

介護の仕事との出会いは

私は中学生の時、施設でのボランティア体験学習がきっかけで、介護職員を志しました。上司に怒られても、“自分で歩きたい”という高齢者の思いに寄り添うことを譲らない、かっこいい介護職のお兄さんがいたんです！

【キャリア編】
2分



自分の気持ちを信じてよかった

親や先生方の意見を聞かずに(笑)、介護の道に進みました。自分の気持ちを信じてよかったと思います。ひと昔前とは違って、認知症ケアなど介護技術も進歩しています。介護する人もされる人も嫌な思いをしなくて済むように、「楽しい」を重視した現場が増えてきていますよ。

「楽しい」を重視した現場が増えてきた

介護福祉士などの資格をとれば、今は、手当などもしっかりつくようになっていきます。福祉・介護の道に興味がある子がいたら、心配なさらず、資格取得の方法とか、具体的なアドバイスをしていただきたいなと思います。

【エピソード編】
6分



介護のプロとして大切にしていることは、『雑談』と『信頼関係』

今、在宅介護サービス事業所に勤務しています。ひきこもりの“おばあちゃん”が、デイサービスに通いはじめ、ちゃんとお風呂にも入ることで、見違えるように…。今はおしゃれに過ごされている印象的な事例があります。デイサービスに通うお気持ちになるまで、3か月間ほど、雑談だけをしに通ったんです。そうやって信頼関係を作れることが「介護のプロ」に大切なことだと思っています。



Business Story

福祉・介護分野で「起業家マインド」を学ぶ

学びを活かして 社会を変えるプロになる

「地域」や「自分」の課題に向き合い、社会的起業にたどりついた先輩たちの **STORY!**

SDGs 学習や探求的な学びを通して地域の困りごとや課題に出会い、様々な立場の人たちとつながりながら、若者らしいアイデアで社会を変えていく。そんな「起業家マインド」の育成が、今、期待されています。ニーズが増え続け成長し続ける福祉・介護分野には、社会的起業の成功例があふれています。福祉・介護の現場に飛び込み、社会的起業に至った先輩たちの事例から「起業家マインド」を学びましょう。

起業家教育とは (アントレプレナーシップ教育)

- 起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）と起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を有する人材を育成する教育です。
- 起業家や企業経営者だけに必要な特殊なものではありません。高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きていくために必要な力の育成のために起業家精神と起業家的資質・能力の育成をするための教育です。

取組方法の例

社協のプログラムもご活用ください

起業家・経営者など外部講師を講演

訪問講座へ

創業経営者の施設・事業所での体験学習

職場体験へ

課題解決のアイデア検討

共生みらいアイデアコンテストへ

企業・地域団体等との共同プロジェクト

参照：「生きる力」を育む起業家教育のススメ（経済産業省、文部科学省）

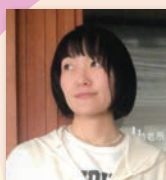
福祉・介護の分野で、社会的起業に至った県内の事例を紹介します！



社会福祉法人
森と木
代表 岸田 隆さん



飯山北高校卒業
20代 知的障害者施設でボランティアを体験
信州大学教育学部卒業後、学校へ勤務
30代 (1994年)「家族支援センターワズハウス」を設立
(2003年) 法人格を取得し、社会福祉法人森と木として、共に暮らしやすい地域づくり等幅広く事業を展開
現在 (2022年) 従業員約400人、年間事業費約12億円へと成長



株式会社
ゼロへの道のり
代表 高山 さや佳さん



長野南高校卒業
20代 東京動物専門学校卒業後アルバイト生活
アメリカへ語学留学
30代 (2011年) ボランティア団体 Happy Spot Club 設立
40代 (2019年) 株式会社 ゼロへの道のりを設立し、宅幼老所 和らぎの家スタート
(2021年) 長野市内の古民家を活用し、みんなの居場所「かえるのいえ」スタート



一般社団法人
生活互助支援の会
理事 美齊津 康弘さん



福井県立藤島高校卒業
20代 防衛大学校卒業後、実業団アメフト選手になり日本一を経験
30代 ヤングケアラーであった自身の体験をふまえ、介護に関わる仕事を指すヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員の資格を働きながら取得
40代 (2018年) 買い物ボランティアマッチングサービス「えんじよるの」を開発運用
(2021年) 一般社団法人 生活互助支援の会を設立し事業展開

3人のストーリーと皆さんへのメッセージは裏面をご覧ください。



福祉・介護分野で「起業家マインド」を学ぶ

学びを活かして
社会を変えるプロになる

Business Story

Business Story

社会的起業にたどりついた
先輩たちのメッセージ

学生の頃からの学びと体験、そして生徒の皆さんへのメッセージを執筆いただきました。



Business Story

社会福祉法人
森と木
代表 岸田 隆さん

高校3年のボランティアで感じた違和感。「諦めない」心で、地域を支える事業へと成長。

僕が障がいのある人の福祉に関心をもったのは40年前の高校3年の夏。知的障がいのある人が暮らす入所施設にボランティアに行ったのがきっかけだった。当時は知的障がいのある子どもたちは学校を卒業すると人里離れた施設に入所するというのが一般的だった。僕は知的障がいのある人が集団で暮らす施設の暮らしに違和感や疑問を感じていた。障がいのある子どもの親は「親亡き後」の心配から施設に預けるしかなかったという。障がいのある人が地域で当たり前暮らしていけるサービスや支援体制がなかったからだ。

大学を卒業し、特別支援学校や障がい者施設で数年働いた後、1994年の春に仲間1人と「家族支援センターワンズハウス」を立ち上げた。1時間500円で障がいのある子どもを一時預かりする事業所だ。子ども達の放課後支援や移動支援、余暇支援、宿泊支援など地域で生きていくためのサービスを展開した。公的

な制度ではないため、運営は利用料でまかなっていたが、それで足りるわけではない。行政に働きかけ、開設2年目に時間単位で様々な支援が受けられる「タイムケア事業」が長野県に誕生した。画期的であった。開設10年後に社会福祉法人となり、現在は障がいのある人の地域生活を支える事業を幅広く展開し、年間事業費は12億円。一緒に働くスタッフは約400人となった。

30年前、まだ誰もやっていない事業を始めるのは正直怖かった。しかし、不安の中でもかすかに感じた光の先には、自分がやるべき使命と未来のあるべき社会の姿が見えていた。「諦める」という選択はなかった。スタッフをはじめ、多くの障がい当事者、家族、福祉関係者、そして市民の皆さんと共に夢を追いかけられることをとても幸せに思う。30年前の自分に「諦める理由探しをしなくてよかったな」と言ってやりたい。



Business Story

株式会社
ゼロへの道のり
代表 高山 さや佳さん

勉強が苦手な、自分に自信が持てない日々。お年寄りとの出会いで、人生が好転し一歩前へ。

私は、千曲市で「宅幼老所和らぎの家」という通所介護施設を運営しています。経営をしている、なんて言うのがとてつとて感じるかもしれません。学生時代の私は「勉強が苦手な自分にいったい何ができるのか…」とネガティブな気持ちで毎日を過ごしていました。何に対しても自信が持てず、親が薦めてくれた動物関係の専門学校へ進学。卒業後はアルバイト経験しかないまま24歳で結婚。2人の子どもを連れて29歳で離婚。「私は何のために生きているのだろうか?」と悩み、泣きながら過ごすこともありました。

そんな私の人生の転機は、32歳で勤め始めた高齢者介護施設での仕事でした。認知症のお年寄りとお過

す時間は「心の居場所」でした。人生で初めて心が震える仕事に出会うことができました。泣いて過ごした日々から考えれば、夢のような話です。

欲しい未来は簡単に手に入れることはできないし、それは欲しかった形とは違うかもしれない。けれど夢を叶えるヒントがあるとしたら、辛さに呑み込まれて諦めてしまわないこと、声に出して伝え続けることだと思います。そんな夢を誰も聞いてくれない時には、私があなたの話を聞きます。私も沢山の人の支えられてここまでできました。今の辛さは、いつかのもっといい日のためにあるのだと信じて、皆さんも一歩前へと進んで行ってください。



Business Story

一般社団法人
生活互助支援の会
理事 美齊津 康弘さん

ある一人のお婆さんの「買い物を手助けしたい!」との思いがアイデアを生み、事業へと発展。

私はケアマネージャーをしています。ある時私が担当するお婆さんから、買い物の相談を受けました。彼女は時々タクシーで買い物に行くのですが、タクシー代だけで5000円もかかり、しかも重い荷物を持って帰るのが大変とのことでした。また彼女はスマホもないのでネットショップも使えません。

そこで私は、電話着信を入れるだけで地域の買い物ボランティアとマッチングできる「えんじよの」と言うウェブシステムを開発して特許を取得し、実際に私の地元で運用し始めたところ、地域の沢山の高齢者が使ってくれるようになり、ボランティアも100人以上集まったのです。

今後この仕組みを応用すれば、買い物支援だけでなく、外出の付き添いや見守りなど、沢山の助け合い

を生み出せると思っています。いつか私はこの「えんじよの」を使って様々な社会問題を解決したいと思っています。

これまで、自分の夢に向かって様々なチャレンジをしてきました。防衛大学校卒業後、ブルーインパルスのパイロットを目指し航空自衛隊に進むが視力が原因で断念。その後、実業団アメフト選手になり日本一を経験し、オールジャパンにも選ばれる等チャレンジを続けてきました。その後、認知症になった母の介護を経験したことで、介護の分野への取りくみや、ヤングケアラーの抱える課題に対しても取り組みを始めています。

皆さん、大切なことは行動することです。自分の感性を信じてどんどんチャレンジしていきましょう!



Innovation Study

学びと技術を活かして

福祉・介護の課題解決を通して
地域に貢献しよう。

共生みらい
アイデアコンテスト
受賞作品

ぜひご覧ください！

福祉分野でもイノベーション(技術革新)が、ますます求められています。理工系やデザインなど様々な分野で学ぶ学生の日頃の学びと、福祉現場での課題がつながれば、イノベーションが生まれます。それは、学生にとって、自分のアイデアが地域社会に役立つ、貴重な原体験となります。長野県では「信州共生みらいアイデアコンテスト」を開催し、数々の学校が多様な団体や企業とコラボし、素晴らしい事業が生まれています。

一人一人が
未来を創る
当事者に
なるために



分野をこえて
創造的な学び
STEAM教育

ふくし × 若者
× 企業団体

時代に合わせて
変化する必要
(学びやスキル)

学びとイノベーションの実践事例紹介

信州共生みらいアイデアコンテスト
(2020受賞者の事例です)



長野県と長野県社会福祉協議会では福祉・介護分野のイノベーションを進めていくことを目的に、工学やデザイン等の様々な分野で学ぶ学生の皆様から、各専門分野の知識を活かして福祉・介護の課題を解決するアイデアコンテストを開催しています。詳細はホームページをご覧ください。

事例1

駒ヶ根工業高等学校
イッサとマブダチ



事例2



上田千曲高校 おしごとひろめGirls活動報告

事例3



長野工業高等学校 水田ヨシタムチーム
物質化学科2年 前山 中村 田中
情報工学科2年 丸山 本郷

事例4



うーん、いいのう~

実践事例の内容は裏面をごらんください



学びと技術を活かして

福祉・介護の課題解決を通して
地域に貢献しよう。

Innovation Study

Innovation Study

共生みらいアイデアコンテスト
受賞作品の紹介



駒ヶ根工業高等学校
イッサとマフダチ

事例 1
(2020年度 県知事賞)
駒ヶ根工業高等学校



リフター Project

●低コストで、未来を支え、技術でみんなを笑顔に

高齢者の困りごとを耳にし、医療・福祉・介護関係で何か役に立つものを作れないかと思い「車いす」を主に考えてきました。バイクや農機具を乗せる際に使っていたアルミブリッジをヒントにひらめき、福祉車両の車いすリフターに応用しました。安全面確保など地域企業にも協力をもらいました。



事例 2
(2020年度 県知事賞)
上田千曲高校



上田千曲高校 おしごとひろめGirls活動報告

OHT～おしごとひろめ隊～

●障がいのある人たちの「仕事」魅力的な「商品」を社会に広めるための提案

障がい者の就労施設での体験を通じ、そこで作られている商品のPR方法を検討。商品の魅力発信のため、SNSやチラシデザインなどを工夫し実践しました。上田市の観光課にアドバイスをもらうなど地域の特色も生かして活動。翌年以降も後輩が引き継いで活動継続中です。

くわの実収穫体験



『よりよい防災マップ』
～アイデアから実用化へ～

事例 3 (2021年度)
長野工業高校



ポヨヨグラム

●「よりよい防災マップ」～アイデアから実用化へ～

効率的に手軽にスマホで見られるデジタル防災マップを開発。2021年度にはソフトバンク賞を受賞。2022年には実用化に向けて開発を進めました。また地域に協力をもらい、アナログのマップ作りにも挑戦したり、行政や専門家にも助言をもらうなど。より実用的なものへと検証を重ねました。



事例 4 (2021年度)
池田工業高校



池工版デュアルメゾンシステム

●池工版デュアルシステムグランメゾン池工ワンチームカート

2020年から4年にわたり、高齢者使用での電動・足こぎ両用カートの設計、製作を計画。安全性能を重視した高齢者に楽しんでいただける製作品を高校生、小・中学生の協力を得てプレゼンし、地元企業・団体11社、他県の企業2社と共同製作をしていく予定です。





Data Watch

データで見る 福祉・介護業界

賃金水準や働きやすさが向上しています

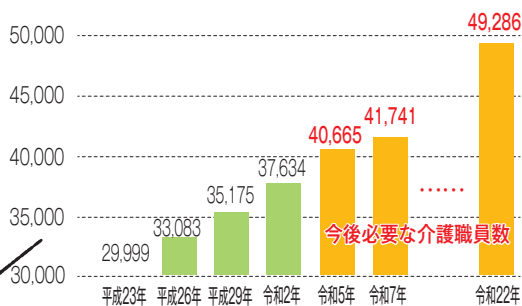
福祉・介護の仕事
資格と進路
裏面をご覧ください

福祉・介護分野の成長に伴って、賃金水準や有給休暇取得率も向上し、働きやすい職場環境になってきました。現在では、「成長産業」と言われ、新規採用・中途採用を問わず多様な分野の学びや経験のある人材が入職するようになりました。

成長を続ける福祉・介護業界

介護サービスの需要が高まる中、介護職員は増え続けています。今後も安定・将来性のある業界と言えます。(長野県目標、令和7年度に4.1万人)

長野県の介護職員数(人)

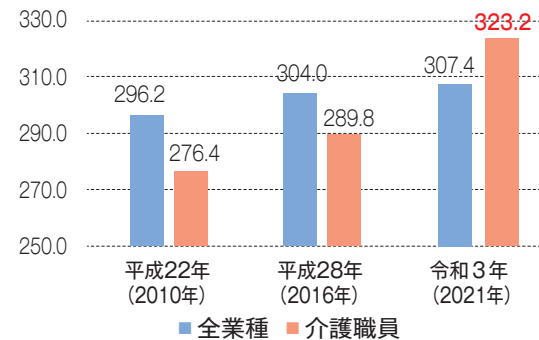


長野県介護支援課資料

賃金水準の向上

福祉・介護業界では処遇改善が進み、令和3年度には平均給与が全業種より高い**323.2千円**になりました。(処遇改善加算Ⅰ～Ⅳ取得事業所の常勤職員)

平均給与の推移(千円)

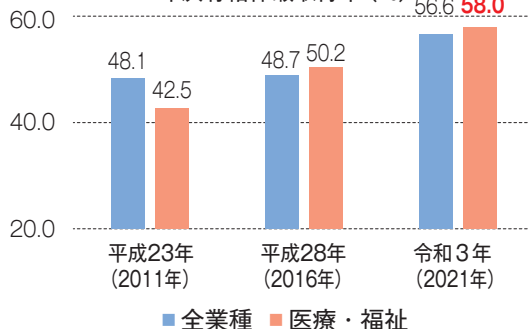


厚生労働省「賃金構造基本統計調査」「介護従事者処遇状況等調査」

有給休暇取得率の向上

「働き方改革」が進むなか、福祉業界も有給休暇取得率が上がっています。令和3年度ではコロナ禍でも全業種平均以上の取得率となっています。

年次有給休暇取得率(%)

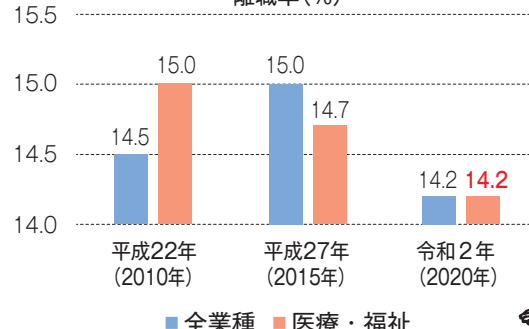


厚生労働省「就労条件総合調査」

離職率の改善状況

職場環境の改善も進み、離職率を見ても10年前とは違い全業種平均がそれ以下になっています。キャリアパスの普及など人材育成の制度も整備されてきました。

離職率(%)



厚生労働省「雇用動向調査」



福祉の資格の種類

介護

主な資格 介護福祉士・実務者研修終了
介護職員初任者研修終了 ほか

内容 高齢者の介護や障がいのある方の生活をサポートする仕事

相談・援助・調整

主な資格 社会福祉士・社会福祉主事任用資格
介護支援専門員 ほか

内容 一人ひとりの心配事や希望を聞き、課題解決に向けて計画を作り実行する仕事

医療的支援

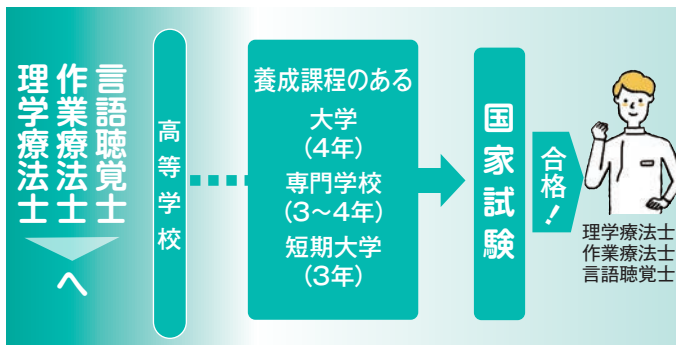
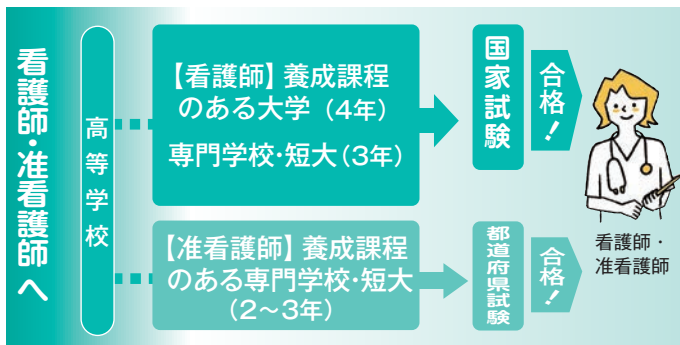
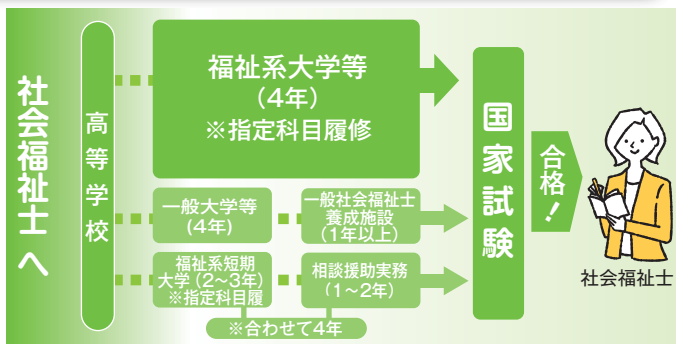
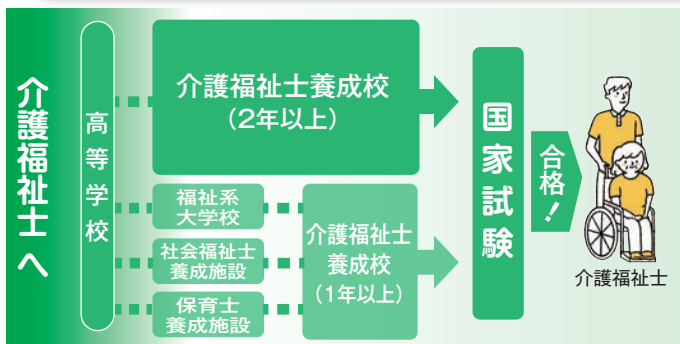
主な資格 看護師(准看護師)、理学療法士、
作業療法士、言語聴覚士 ほか

内容 病気やケガなどで不自由な生活を送る方の治療やリハビリに関わる仕事



資格と進路

高等学校卒業者の一般的な資格取得ルートです。実務経験を積んでから資格を取る方法もあります。



※長野県内に資格取得のための学校・養成機関がないものもあります。

福祉・介護の現場では、加齢だけでなく様々な理由で日常を送るために支援が必要になった人たちに、専門的知識・技術で生活を支えています。「福祉・介護の仕事をしたい」「人の役に立ちたい」と考える高校生を、応援してください。



いまの福祉・介護を支える若手職員からのメッセージ

- 介護の仕事は年々その重要性が増えています。それは利用者の福祉・介護に対する信頼感があるからです。責任も重い仕事ですが、それだけにやりがいがあります。
- 福祉の仕事はとっても楽しい。利用者の方もそれぞれのカタチで「ありがとう」を伝えてくれます。その幸せを味わえるのは介護の仕事ならではの喜びです。